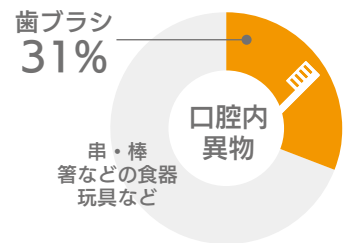


口腔内・咽頭外傷



1. 疫学

救急外来を受診する小児のうち0.4%が口腔外傷で、
そのうち口腔内異物による外傷が22%、
口腔内異物によらない外傷が78%と報告されている¹⁾。
口腔内異物としては歯ブラシが最多(31%)で、串や棒、箸などの食器、玩具と続く¹⁾。
歯ブラシによる外傷は1歳が最多で、1歳の事故による救急搬送の約2%を占める²⁾。



2. 病態

膿瘍のリスクが
約10倍



歯ブラシによる外傷
1歳の事故による
救急搬送の約2%



口腔内外傷を疑う場合は口唇、頬粘膜、歯、歯茎、舌、咽頭、口蓋を丁寧に観察する必要がある。
歯ブラシなどの異物が刺さって途中で折れ、粘膜の下に埋まった場合、
入り口の粘膜が閉じ、傷が小さく見えることがあるので注意する。
異物が刺さった場合は、口蓋扁桃周囲の咽頭であれば頸動静脈損傷、
軟口蓋・正中寄りの咽頭であれば頭蓋内損傷、頬粘膜側であれば頬粘膜脱出が懸念される。
歯ブラシによる外傷では、他の棒状のもの（おもちゃなど）による外傷と比べて、
膿瘍のリスクが約10倍との報告もある³⁾。

3. 応急処置

出血や腫脹による気道閉塞があれば直ちに気道管理に慣れた専門家のもとへ搬送する。
歯髄が露出した歯冠破折、動揺や転位が強く安静保持困難な亜脱臼、歯根破折が
否定できない損傷、完全脱臼があればすぐに歯科へ相談する。
歯ブラシを含む異物が咽頭に刺さった可能性のある病歴、頬粘膜脱出があれば
耳鼻科、口腔外科などに相談する。
症状がなくても、合併症の出現が懸念される場合は厳重に経過観察できるように入院も考慮する。

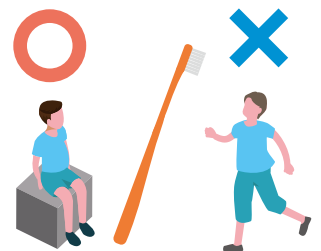
歯科

耳鼻科

口腔
外科

4. 予防・啓発

- 歯ブラシなどの刺さりうる物を持ったまま歩かないようにする。
- 子どもが自分で歯磨きをする場合は、
保護者の見守りのもとで座ってする。
- 喉突き防止歯ブラシを用いる。



参考文献 1) Inoue N. Pediatr Int. 2017;59:826-830.
2) 東京消防庁．乳幼児の歯みがき中の事故に注意！．
3) 山本潤ら．小児耳；2011；32:393-400.
4) 東京都．乳幼児の歯みがき中の喉突き事故に注意！